

ジェンベたたたくと何が変わる？

東北外語観光専門学校(仙台市青葉区)で16日、西アフリカで伝統的に使われている片面太鼓「ジェンベ」の音が鳴り響いた。

演奏する生徒や教師らは、ガイド役のリードでたたく勢いに強弱をつける。はにかんでいた生徒らの表情は、笑顔に包まれた。初めはアップテンポなリズムについていくのがやっとでも、次第に息が合い、ばらばらだったジェンベの響きは一つになっていった。生徒の中には就職活動に励



逸問 答

星山真理子さん(33)

ドラムカフェエジヤパン 最高経営責任者(CEO)

笑顔こぼれる

仲間生まれる

む人もいる。「すっかりしたというか、すこりフレッシュユできた」
ドラムカフェはこんなドラミングの魅力を通して、組織に必要な人間関係の構築(チームビルディング)を手助けするビジネスを展開している。

ジェンベをたたくことで何が変わるの？

「ドラミングは人を笑顔にし、仲間を感じて相手を尊重し、みんなで感動を作り上げるのができます」
組織の中ではそれぞれが、立場や機能といった目に見えない力に支配されている。それを取り除き、人として真の関係を築こうという手法だ。

「ドラムを使って演奏し、一度でも互いに仲間として尊重する気持ちを感じることが

できたら、必ず実務の場でも生かせる」と信じています」

ドラムカフェの発祥は、南アフリカのヨハネスブルク。ウォーレン・リーベルマン氏が、1996年に創設した。

「ドラムカフェの誕生は、アパルトヘイト(人種隔離)政策の完全撤廃(94年)と密接にかかわっているんですよ」

当時、平等雇用を導入し始めた南アの企業多くは、肌の色や人種の違う人同士が一緒に働ける環境づくりに頭を悩ませていた。互いに理解を深め、尊重し合うことを体験できる取り組みが求められて

いた。以来、言葉を使わないコミュニケーション、チームビルディングのツールとして広がった。ビル・クリントン元米大統領ら、世界のリーダーたちもドラミングを楽しんでいる。しかし、日本での歴史は浅い。

ウォーレン氏が2009年5月、体感型ドラムパフォーマンス「ドラムストラック」の開催に向けて仙台市を訪れた際に通訳を務めた。

「この時、『日本でやってみないか』と声を掛けられました」

翌月、南アに赴き、ドラム

カフェの神髄を知る。それらがきっかけで同年8月、ドラムカフェエジヤパンを設立した。

「日本での知名度は低いのですが各地のイベントから、大手企業の研修に至るまで、依頼が来るようになりました」

なぜ、仙台を拠点に？

「残念ながらここ数年、東北、宮城、仙台の景気はよくありません。こんな時代だからこそ、元気の源を地方から発信したいと思うのです」

ドラムカフェのルーツを踏まえ、こう話す。

「組織の中で、健全なぶつかり合いは良い化学反応を生み出すはず。南ア発祥の会社ですが、日本人と日本企業がパワーを取り戻せるよう、お役に立てれば良いと考えています」

報道部 末永 秀明
写真部 坂本 秀明